月刊

嶺上新星

2021 年 4 月号

ATLAS THE MOON　月齢 7.4

上弦の月の海と山脈

北極星の代替わり！？

自転と歳差運動

刊行開始記念！

今月の写真テーマは

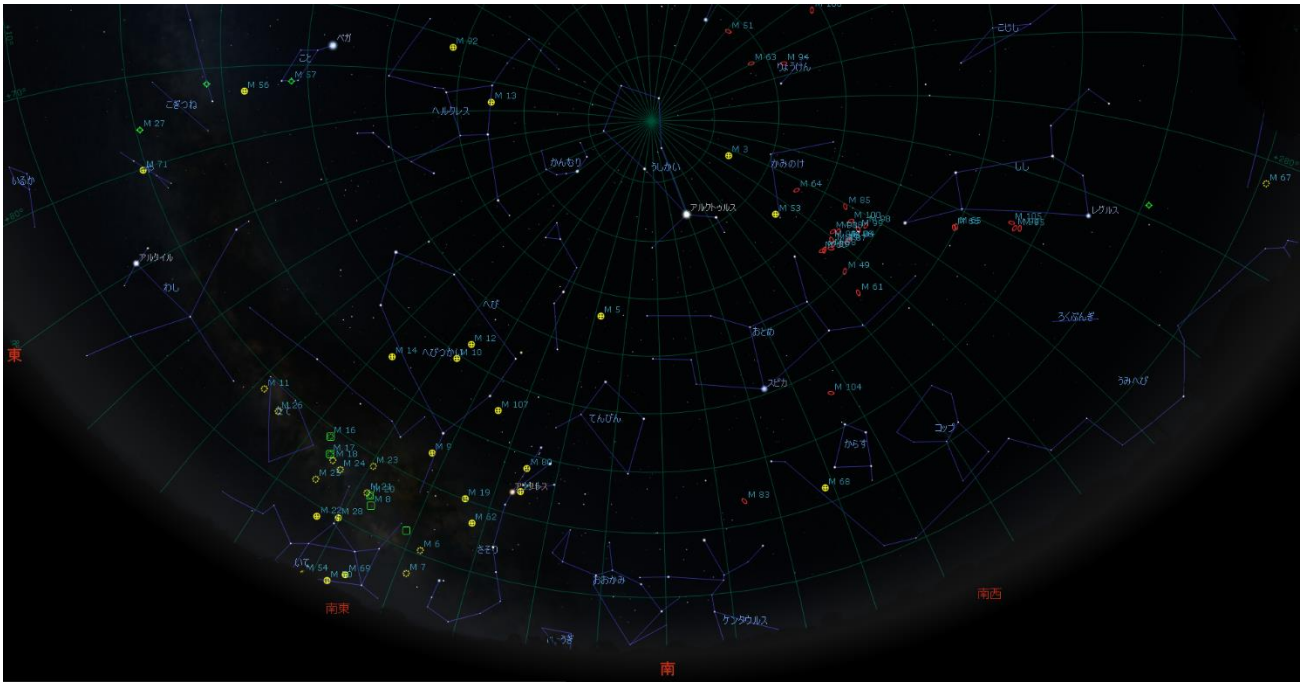
「初めての」

神戸大学　天文研究会

表紙：53 期生　麓
Canon EOS Kiss X10 / EF 70-210mm F4
f5　1/200 秒　ISO100

星空情報

▼2021 年 4 月 16 日　午前 1 時頃の星空



総観のおすすメシエ

- M68

  AREA No. 11 / 球状星団

  ◆　からす座の下の小さな球状星団。

  ◆　見応えがないとか言わないで。私は小さい方が好きなんです。

- M83

  AREA No. 11 / 系外銀河

  ◆　別名「南の回転花火銀河」。春の系外銀河祭最後の刺客。

  ◆　初夏の球状星団に圧されて忘れられがち。私も入れた筈なのに記憶がない。

- M5

  AREA No. 13 / 球状星団

  ◆　へび座（頭部）とてんびん座から辿る球状星団。

  ◆　大きく安定した見え味が特徴。程よい難易度なので是非挑戦してみよう。

今月のひとくち星座解説♡

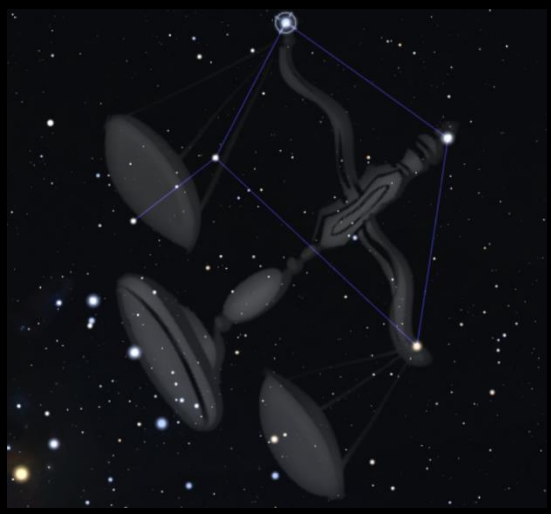
今月の星座は…てんびん座

※4 月中旬の夜 12 時に南中する星座を選んでいます。

こちら、4 月中旬真夜中の南の空。なんか見覚えのある星座の並び、この中にありませんか？

そう、左下にさそり座がありますね。S 字の形をした、わかりやすい星座です。

しかし今月ご紹介するのはさそり座ではなく、その右上に見えている、てんびん座です。え、どれ？左の画像、これがてんびん座です。



明るい星があるわけではなく…決して大きいわけでもなく…さそり座に印象負けしている。

ただ、誕生 12 星座のひとつなので、名前だけは知ってるなって人も、いるんじゃないでしょうか。

せっかくなので、この星座をもっと、詳しく見ていきましょう…

さて、筆者は神話自体を嫌っているわけではないが、神話を「語る」ということがどうにも嫌いなので、まあ神話はググってくれたまへ。神話はとりあえずてんびんであるというお話だと思う。全体的に。

ここでは、てんびん座の「危うい存在だな…と思われる」話でも。

―てんびん座の「危うい存在だな…と思われる」おはなし―

元々はさそり座のはさみの部分であったらしい。てんびん座として独立したのは紀元前 1 世紀頃と考えられているが、いつ誰が独立させたのか定かではない。2 世紀中頃、クラウディオス・プトレマイオス（トレミー）は『アルマゲスト』の中に「爪」と記している。なんとなく、さそりでかすぎるから、ちょっと分けよか、みたいなノリだろうか。ただ、古代ローマでは昼夜の長さを等しく計る天秤であると、さそり座とは別の星座ととらえられるようになったのです。しかし、未だにさそりの「爪痕」ははっきりと残っています。

てんびん座の星の横に、α、β、γ…と示しました。これは、昔のバイエルさんという人が、星座ごとに等級順にギリシャ文字小文字などで名付けたもの。従って、α星から明るいはずだが、てんびん座で最も明るい星はβ星である(どうしてかな)。これからの星座解説でも用いると思う。

さて、さそりの爪痕はどこに残っているのか。それは、てんびん座を構成するそれぞれの星の名前にある。

以下を見てほしい。

α１星：ズベン・エル・ゲヌビ（Zubenelgenubi）でアラビア語で「南の爪」を意味するالزبن الجنوبي (az-zuban al-janūbiyy）に由来。

α２星：キファ・アウストラリス(Kiffa Australis)でアラビア語の「南の皿」という意味。

β星：ズベン・エス・カマリ（Zubeneschamali)といいアラビア語で「北の爪」を意味するالزبن الشمالية (al-zuban al-šamāliyya)に由来。てんびん座で最も明るい恒星。実際は青白色だが、緑色に見えるらしい。めっちゃ昔は、さそり座の心臓にある星、アンタレスより明るかったらしい。これは、この星が暗くなったのではなく(まあ多少暗くなったっぽいけど)、アンタレスが明るくなったのではないかと考えられている。なんかそういうところでもてんびん座「ふびん」やな。

γ星：ズベン・エル・ハクラビ（Zubenelhakrabi)といいアラビア語で「さそりの爪」を意味する。

σ星：ズベン・ハクラビ（Zubenhakurabi）、現在はブラキウム。アラビア語で「南の爪」を意味する az-zuban al-janūbiyy に由来。

かろうじて、α２星にてんびん要素がある。これは、α星が二重星であるため、別々に名前がつけられているのである。空気が澄んでいれば肉眼で見分けられるらしい。

しかし、他は見事なまでの「爪」。これはもう、てんびん座はさそり座ですと言っても過言ではない(過言)。

文責　野間光葉

勉強会 *Short*

～北極星の代替わり！？　自転と歳差運動～

GPS や方位磁針が発明される前から、人々は北極星によって方角を知ることができました。実際にエジプトのピラミッドなどは、北極星を使った測量を行うことで、東西・南北に沿った見事な直線を実現しています。

現代においても、方位磁針より北極星の方が正確な北を指し示すことが知られています。古代の人々の知恵を実感できますが、実は彼らが見ていた北極星が私たちの知る北極星と異なっていた、というのはご存じでしょうか？

そのお話に入る前に、まずはどうして北極星が北を示すのかについて説明します。

夜空の星々は地球の自転によって、東から西へ動いていくように見えます（日周運動）。この時、地軸（地球の自転軸）の延長線上の位置（天の北極・天の南極）は自転の影響を受けず、そこにある星は北（あるいは南）から動かないように見えます。そして現在天の北極近くにはこぐま座α星があり、私たちはこの星を北極星と呼んでいるのです。

しかし地軸がずっとこぐま座α星の方に北を向けている訳ではありません。地球は地軸を 23.4 度傾けて自転していますが、自転軸の傾いた天体は倒れかけのコマのように、ふらふらと軸を揺らしながら回転します。これを**歳差運動**といいます。

歳差運動によって天の北極は少しずつ移動し、別の星が天の北極近くに来ることで、北極星は代替わりを行うのです。

古代エジプトの文献によると、今からおよそ 4,800 年前の紀元前 2,800 年頃には、りゅう座α星が北極星を務めていたようです。そこから長い年月をかけて現在のこぐま座α星へと代替わりし、こぐま座α星が北極星として認識され始めたのが 16 世紀、「Polaris（ラテン語で『極の』の意）」という固有名を正式に貰ったのが 2016 年のこと。こぐま座α星の北極星としての歴史は意外にも短いのです。

では、この先どの星が北極星を務めていくのでしょうか。

星座の主要恒星がこぐま座α星の次に北極星となるのは西暦 4,000 年頃で、3 等星のケフェウス座γ星。西暦 7,800 年頃には 2 等星のケフェウス座α星、西暦 10,200 年頃には少し遠いものの、はくちょう座のデネブが北極星を務めます。

西暦 13,500 年頃にこと座のベガが北極星になった後は長い間明るい北極星が不在になりますが、西暦 23,000 年頃には再びりゅう座α星が北極星を務め、こぐま座α星にその役目が戻って来るのは西暦 25,000 年頃と考えられています。

不変で巡り続けるように見える星空も、実は少しずつ変化しています。遥か昔の人々がどんな空を見ていたのか、そして遠い未来の人々がどんな空を見ているのか、一度想像してみてはいかがでしょうか。

—53 期生　宇宙科学班班長

参考：Wikipedia、国立天文台 HP など

日付	2021/4
天候	晴れたらいいな～とは思っているものの予定すると晴れない傾向にある
場所	太陽表面
文責	野間光葉
メモ	今回は初回なので、太陽表面をなーんとなく知れたらいいなと思う。 ・人の目で観測できる太陽の表面を「光球面」と言い、温度は約 6,000℃で太陽の可視光線の大部分はここから。 ・太陽内部では水素のガスが核融合反応により、放射、対流が起こっている。 ・対流が起こらない場所は熱が伝わらないので温度が下がり「黒点」になる。 ・黒点の下に押し込められた熱は黒点の周辺の「白斑」になる。 ・黒点は天研の太陽観測で探せる。(☞) ・太陽は 27 日の周期で自転している。ただし、回転の速度は緯度によって異なる。 ・毎日太陽観測できたらな～自転感じれるのにな～ ・まず晴れないと見れない。 ・黒点のもっと詳しいおはなし 太陽面上では、黒点が磁極となり磁力線をのばしている…(つまり黒点が N 極だったり S 極だったりする)。その磁力線は内部の対流層で磁力線がひきのばされて強められ、その浮力により表面に浮き出てくると考えられている。そしてその浮き出た切り口が黒点として観測されるのである。 ・黒点の特徴　いっぱいあるけど、全部を納得させられる理論はまだない。 11 年周期で出現頻度が増減する/出現する箇所が高緯度から低緯度へと移り変わる/表面磁場では N 極と S 極とが対になって出現するが、その位置は回転方向とほぼ平行である/北半球で回転方向に対して NS の順で出るときは南半球では SN の順であらわれこの規則は次の周期ではひっくり返る…etc…

太陽の探検隊
太陽を追いかけよう

ATLAS THE MOON -1-

Moon age : 7.4(2020.10.24.8:00P.M.)

-Introduction-

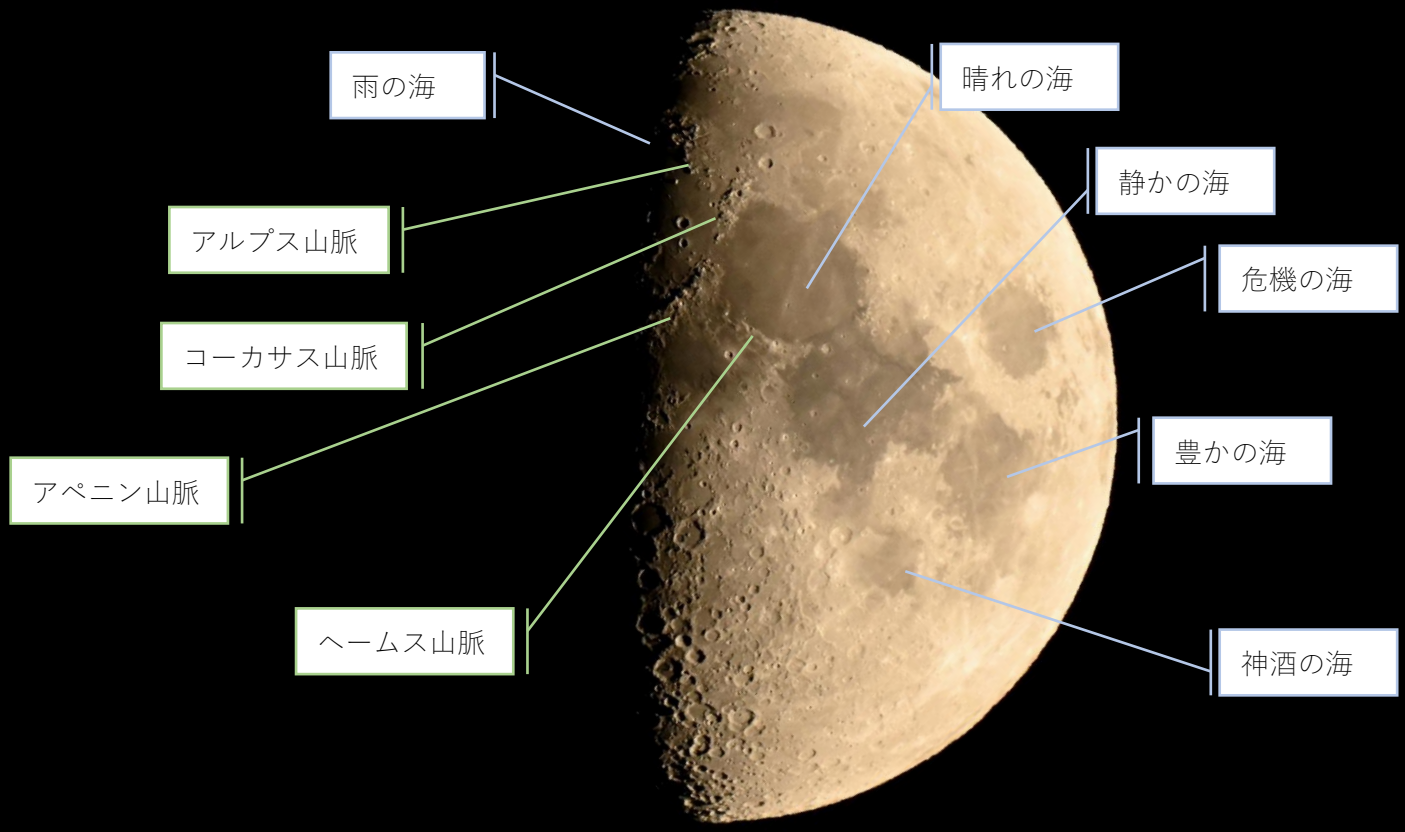
半月のことを弓に張った弦に見立てて、弦月とも言います。旧暦のひと月には弦月が必ず 2 回あるので、上旬の弦月を上弦、下旬の月を下弦としたのです。小学生のころ、月の満ち欠けを習うのに、月が昇ってくる頃、月の弦側が上に見えるから上弦の月、下に見えるから下弦の月なんて習ったことがある方も多いんじゃないでしょうか。間違ってはいませんが、起源は異なるのです。

さて、この上限の月、見どころはもちろん、この欠け際です。よく見られるのは満月ですが、月面地形を楽しめるのは欠けた面があるときです。満月のときには見えない影が、月面地形を浮かび上がらせます。

-What are we introducing this time…?-

おすすめの月面地形を言いたくて始めたこの投稿ですが、初回からぶっ飛ばすとアレなので…
まずはわかりやすいところから、ご紹介したいと思います。今回ご紹介するのは、月の「海」と「山脈」です。みなさん、地図を見たとき、ぱっと目につくのは海と山ではないでしょうか。月に地球のような海があるわけではありませんが、わかりやすい地形なので、ぜひ覚えてください。

ATLAS THE MOON
WHERE TO LOOK FOR THIS MONTH?



一見して月は、暗い部分と明るい部分にわかれます。暗い部分を月の海、明るい部分を月の高地と呼びます。この月齢(上弦の月)では、山脈の影が美しいですね。

この中でも、アペニン山脈は月面でもっとも目立つ山脈で、雨の海からの高さは 6km もあります。アペニンという名前は、イタリア半島を縦断する山脈名からとられています。1647 年、ドイツのヘベリウスの考案で、月の山脈にはヨーロッパ周辺の山脈名を付けることになりました。月には、たくさんの地球の地名が付けられています。ただ、アペニン山脈を見るのは下弦の月の方が全貌を見ることができていいと思います。

ヘームス山脈は、ブルガリア・セルビア国境にあるバルカン山脈の旧名です。晴れの海からの高さは 2.4km。

コーカサス山脈は、アペニン山脈から直接続いています。この位置で雨の海と晴れの海の間を走る幅 50km の「海峡」によって分断されているので、コーカサス山脈の山頂から見る地平線は 110km の彼方にあって、両方の海の一部が見られるはずです。

さて、アルプス山脈ですが、この山脈には見ごたえのある谷があります。右の写真は、上の写真の拡大であまり解像度はよくないですが、薄い線が見えていますね。これがアルプス谷です。実は、このアルプス谷の谷底には蛇行谷があり、アルプス谷の中央谷と呼ばれています。この中央谷は幅 1km しかなく、良シーイングかつ大きい口径の望遠鏡(35cm 以上)でないと見えません。私はまだ実際に見たことがありません。いつか見たいと思います。今年の目標とします。

-Conclusion-

月の地形を紹介してきましたが、とりあえず初回はこんなものでどうでしょうか。月は簡単な望遠鏡、カメラ、双眼鏡で見ることができる、一番見やすい天体です。ぜひ今夜、月を見てみて下さい。ちなみに、今月の上弦は 20 日です。月の出は 10:36、月の入りは 0:45。

文責　野間光葉

ATLAS THE MOON
WHERE TO LOOK FOR THIS MONTH?

Capture a Moment

今月のテーマ：**初めての**

　4月。新しい学年、新しい生活、その中で初めて体験することがたくさんあると思われます。
そんな4月に初めての嶺上新星が制作されるとのことで、写研班班員が撮影した『初めての』場面を切り取った1枚を集めました。

人生初のほうき星(左)

☆ネオワイズ彗星を下宿近くから撮影。彗星を見ること自体が初めてだったので薄らとでも尾まで写ったことが嬉しかったです。

撮影地:神戸市

シリウスと漁火(下)

☆カメラを買って2ヶ月くらい経ち、初めてソフトフィルターを付けた時に撮った写真です。海辺の観測地なので漁火が水平線に航跡を描きます。

Canon EOS Kiss X10
EF-S 18-55mm F4-5.6 IS STM
f4 25秒 ISO12800

撮影地:和歌山県

庭先で

☆高1の夏に初めて撮った星の写真です。
露光不足な上、星がぶれちゃっていますが、肉眼では見えていなかった星や星団まで写っていて、写真と星図を見比べては「ここにこんな天体があるんだ！すごい！」と感動していました。

SONY α65
DT 18-55mm F3.5-5.6 SAM
F4.5 8秒 ISO800
撮影地:沖縄県

黄昏時

☆部室から見える夕焼けと三日月です。初めて見た時はその綺麗さに驚かされました。

Canon EOS Kiss X10
EF-S 18-55mm F4-5.6 IS STM
f5.6 1/100秒 ISO800
撮影地:神戸市

初めての流れ星撮影

☆ペルセウス座流星群の時期に撮影しました。ここまではっきりと流れ星が映りこんだのは初めてだったので感動したのを覚えています。

Canon EOS6D markⅡ
SIGMA 20mm F1.4 DG HSM
f1.8 ss10 ISO3200
撮影地:静岡県

Milky Way

☆カメラを買い替えて初めて撮った天の川です。
撮って出しでもはっきりと天の川の色まで出ていて、つい叫んでしまった覚えがあります。

SONY α7Ⅱ
SAMYANG 24mm F1.4 ED AS IF UMC
F2 20秒 ISO2000
撮影地:和歌山県

初めてのメシエ

☆つい１か月ほど前に撮った初めてのメシエ天体です。望遠鏡で目視してもほとんど見えない銀河が写真だとはっきり見えて感動しました

ε-160
Canon EOS6D(HKIR改造)
90秒×33(50分)
撮影地:岡山県

『初めての』場面を切り取った写真の数々、いかがでしたか？
初めて写した天体の写真が多いですね。
その中には人生初めての場面を切り取った写真も多いことでしょう。
一枚一枚に納められている思い出を想像しながら写真を見てみると、また違った写真に見えてきます。

ぜひ、写真フォルダやアルバムから初めての場面を納めている一枚を探してみましょう。
そして、はじめの一歩を踏み出した時の気持ちを思い返すことで、少し弛んでいた気持ちが引き締まるかと思います。

初めてのことは右も左もわからず、不安でいっぱいだと思います。でもそれを乗り越えた先には、ワクワクする世界が広がっていることでしょう。
そのワクワクする世界に飛び込んで、今まで見たことのない新たな世界を切り拓いていきましょう。

文責:比嘉

物語の星

愛き貴女にさよならを　　—2020年4月　新歓オンライン投影

　太陽が沈み、やがて、月も沈み。等間隔に並んだ平坦で無機質な光だけが、余すことなく地上を照らしている。そんな眩しい静寂の中、私は屋根の上で独り、空を見上げていた——いつまでも飽きる事のない、この、星空を。

　気紛れに尻尾を振れば、揺られた鈴がりん、と鳴って、その澄んだ音は辺りへ響き渡る。すると、まるで待っていたかのように、下の方から憶えのある声が聞こえてきた。
「今の音は……スミレ？おーい、スミレー。どこー？」
　少しだけ嬉しい反面、大きな溜め息が出る。彼女とはもう会わぬよう決めていたけれど、呼ばれてしまえばそんな心も簡単に折れてしまう。
「ここだよ、ユカリ」
「あ、いたいた。ちょっと待ってて、今そっちに行くから」
　人間の体はいかにも重そうなのだが、彼女はそう言うと、慣れた様子で、随分簡単そうに屋根まで登り切り、私の隣に腰を下ろした。
「はい、お待たせ……って、あれ？もしかして、もう月は沈んじゃったの？」
「ああ。綺麗な上弦の月だった」
「えーっ、折角久し振りにスミレと会えたのに。二人で見たかったなー、月」
「まあ、また今度な」
　そう言った直後、私ははっとして口を噤んだ。残念がる彼女を慰めようとしたって、そんな出鱈目な台詞は許されない。すぐに代わりの言葉を探し、順番に紡いでいく。
「……それに、月はなくとも、そのお蔭で星が良く見える。例えば、ほら、天頂より少し北の方に、北斗七星があるだろ」
「北斗七星って……あれ、だよね」
「そうだ。柄杓の形をした、特徴的な並びの七つ星。これが、北斗七星。そして、この柄杓の柄を尻尾として、大きな胴体、三角の頭。前脚と、後ろ脚がこうあって、これで、おおぐま座。美しき女神カリストの、醜く哀れな成れの果て」
　生涯男と交わらぬ事を主に誓ったカリストだったが、彼女の美貌は大神ゼウスを魅了し、その結果、彼女は望まぬ子を身籠るに至る。かくして誓いを破った彼女は、怒る主の呪いを受け、その身を熊へと変えられてしまった。だから、あの姿は罪の証。どれだけ過去を恨んだとしても、彼女が女神に戻る事はない。
　これで誤魔化しは効いただろうかと、ユカリの方を窺う。彼女は依然として星を眺めていたが、私の視線に気付き、こちらを向いて笑みを零した。
「初めてじゃない？スミレが星の話をするの」

その屈託のない笑顔に、胸が締め付けられる。これはきっと、私に課せられた罰なのだろう。彼女は少しも悪くない。彼女が何も知らないのは、紛れもなく私のせいなのだから。
「ねえ、もっと教えてよ。私、星座なんて全然知らないからさ」
咄嗟に出てきた話ではあったが、どうやら好評のようだった。彼女の要求に応えて空を見上げ、もう一度口を開く。
「それなら次は、南の空。この辺りに横たわる、とても大きな星座。ここが頭で、肩、胴体。右脚と、左脚がこうあって、ここが、右手。左手に持った麦の穂は、一等星のスピカ。これで、おとめ座。正義の女神、アストライア」
神々が、人間と共に暮らしていた頃。文明を持つようになった人々は、次第に欲望を芽生えさせ、争い合うようになってしまった。愚かな人間達の行いに呆れ、一人、また一人と天へ去る神々の中で、最後まで地上に残り、人々に正義を説き続けたのが、このアストライアだったという。
しかし懸命な努力も虚しく、人間は堕落の道を歩んだ。失望した彼女は遂に説得を諦め、血に染まった地上を去って星座になる。これがおとめ座だ。
彼女は今、何を思っているのだろう。平穏だったかつての大地を夢見、再びそこへ降り立つ事を、望みはしないのだろうか。……いや、或いは、この世界を惜しむ私の方が、彼女からすれば不思議でならないのかもしれない。

「……猫の星座って、ある？」
ユカリは突然、思い耽る私にそう尋ねた。
「猫？どうして、そんないきなり」
「別に、大した意味はないよ。ちょっと気になっただけ」
彼女がそうは言うものの、やはり、何か理由があるのではと疑ってしまう。私は少し臆病なようだ、なんて、余りにも今更な事を感じた。
「さっき教えたおおぐま座の、後ろ脚を延ばした先にある、ぽつんと光る三等星。ここから、尻尾、胴体、頭と辿って、これで、やまねこ座」
「えっ、これが星座？ちょっと暗すぎるよ」
「そうかな。私は寧ろ、このくらいが丁度良いと思うが」
暗闇に紛れて息を殺し、目立たず、誰にも気付かれず生きる——それが私のあるべき姿。こちらへ来る時には散々聞かされたし、勿論、私自身もそのつもりだった。けれど私はユカリと出会い、月光に照らされる喜びを、星を眺める楽しさを、そして、誰かの隣で笑う幸せを知った。それら全てが今、鉛の如き足枷になろうとも分からぬまま。
今宵が終われば、私は帰らねばならない。初めから決まっていた事なのに、自分の生まれた場所に戻るだけなのに、頭では幾ら納得していても、心がそれを拒んでいる。
また、ユカリの方を向けば、彼女はやはり、空の一点を見つめていた。ただ先程と違い、その横顔はどこか淋しそうだ。沈黙の中、それから彼女は頭を垂れ、膝を抱え込んで丸くなった。

「どうした？寒いのか？」
「ううん、そういうのじゃなくて……」
　言葉が途切れる。それに続くものは、大きな呼吸を一つ挟んだ後、彼女の口から零れ出た。
「私、大学生になるの。しばらくスミレと会えなかったのも、ずっと、受験のために勉強してたからなんだ」
「……なあ、人間の事は良く分からないが、それは良い事なんだろ？嬉しくないのか？」
「嬉しいよ。でも、大学が遠いから、もう、この町を離れなきゃいけないの。そしたら、スミレと会う機会も、どんどん減っちゃうんだろな、って……今は、そっちの方が大きいよ」
　いつだって彼女は正直だ。自分の胸の内を、少しも隠さず打ち明けてくれる。
「ねえ、スミレ。たまには、こっちに帰ってくるからさ……その時には、また話そうよ。こうやって、二人で一緒に」
「……ああ、そうだな」
　それに比べて私は、結局臆病で卑怯なまま――嘘と秘密で築いた虚構を、ほんの少し削るだけの勇気すら持っていない。
「それじゃあ、もうすぐ朝になるから、私は帰るね。……バイバイ」
　どこか後ろめたそうなその言葉に、私は鈴を鳴らして返事する。屋根を降り、その姿が見えなくなるまで、彼女はこちらを振り返らなかった。
　静寂。私に残された、僅かばかりの猶予。せめてもの償いとして、空を見上げ祈る。
　おおぐま座とおとめ座の間にある、ぼんやりとした星々の群れ。これを直角に結んで、かみのけ座。愛する者の無事を願った、神々への贈り物。
　私が遺せる物など何もないけれど、どうか、彼女の旅立つ新たな世界が、希望と幸福に満ち溢れていますように。そして、美しきこの星空が、彼女の上で輝いていますように。
　夜が明ける。別れの時だ。もう二度と、ここへ戻る事はないだろう。東雲に消えゆく闇を追いかけ、私は、この世界を後にした。

あとがき

昨年の新歓投影に向けて書いた、私の、ひいては現３回星プラネ班の処女作です。

まあ何というか、その……ごめんなさい。悪気はなくて、ただ百合プラネが書きたかっただけなんですよ。何を隠そう私がプラネ班入班を決意したきっかけが２つ上の先輩の百合プラネでしたから。

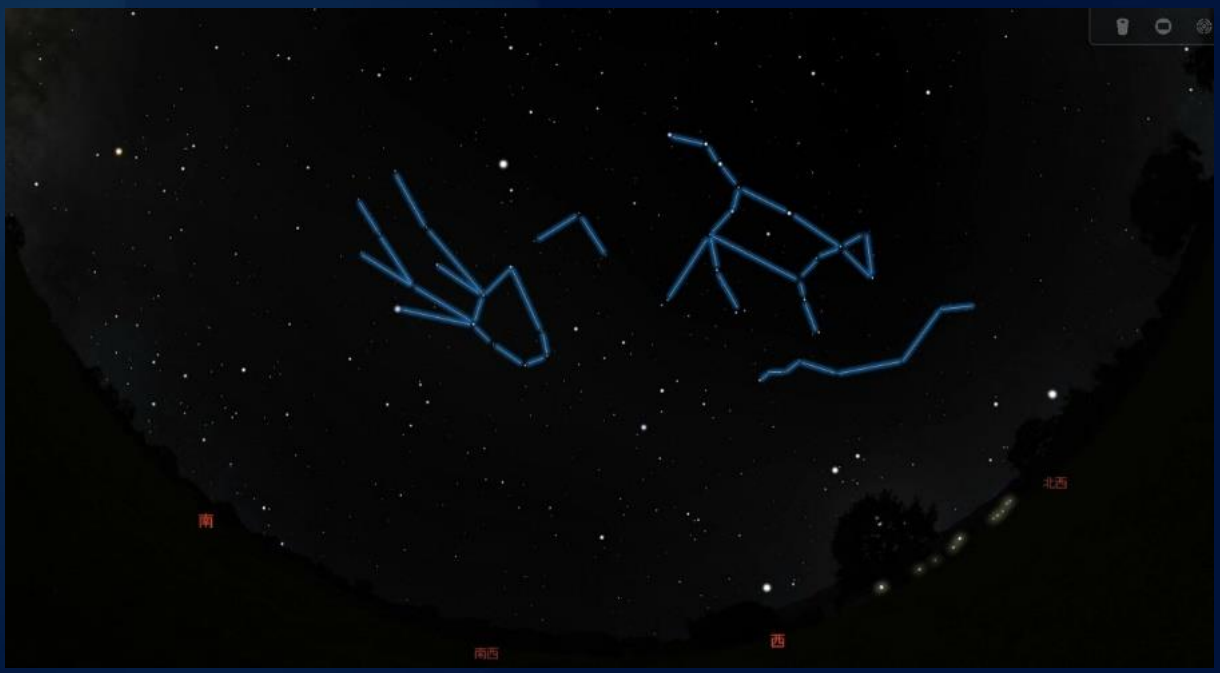
……さて、弁解も程々に。この原稿を書いていた時、私は丁度免許合宿に行っていました。田舎の方で娯楽も余りなく、自室での暇潰しは専らこれだったんですね。相方にやまねこ座を投影させるのは流石に鬼畜だよな（というかドームで自分がやまねこ座を辿ることができるのかもかなり怪しかった）、でもこいつは鍵になるし削れないよな～なんて悩みながら書き上げて、合宿から帰ってきたらコロナで新歓投影中止……私が教習所に缶詰めにされていた間に何があったんだと。

そして未曽有のパンデミックは収束の気配すら見せず、結局新歓祭もオンライン開催。このまま投影の機会なくお蔵入りになるのは嫌だから原稿だけでも公開をしよう、と何気なく呟いたところ、そこから紆余曲折を経て当時のプラネ班長がオンライン新歓で投影の場を用意して下さいました。これが現在のオンライン投影に繋がります。本当感謝しかありません。

そろそろ原稿の内容の話をしろと言われそうですが、実の所そんなに話すことがない、というか話したくないんですね。というのも私は文章に書いていない部分を聞き手・読み手に自由に補完して貰うスタイルの書き手で、その書いていない部分をこちらがベラベラ話すと物語の面白さが半減するんじゃないかと考えているのです。プラネとしてのこの書き方は班内でも賛否両論で、ノリノリで考察してくれる人もいれば、もっと分かり易く書けと怒る人もいます。まあ私はこれ以外能がないないので何を言われてもこのスタイルを貫き通しますが。

ともあれ、自分の中では一、二を争うお気に入りです。ご自由に考察して下さい。

―53 期生　ナマコの人



▲2020 年 4 月 2 日　0 時 30 分頃の星空と登場した星座

頁数調整の間

何でこんなページがあるのかって？
そりゃ、ページが余ったからに決まってるだろが。
こいつは神戸大学天文研究会の月刊会報誌だ。
学生の作りモンだろうが一応雑誌なんだ。
ページを偶数にして作ると、
両面印刷で製本した時きっちり「本」になる。
それを奇数で作ったらどうなるか。
裏表紙が裏表紙じゃなくなるんだ。
そんなん許せる訳ねえよなあ？

……まあ、そういう訳だ。
だからこれからも企画の合計ページが奇数になったら、
またこんな風に中身のない文章が挿入されることになる。
何？編集後記でも書けって？
それだと毎回書かなきゃいけなくなるだろが。
偶数だったらこのページは要らねえんだ、
そのくらいが丁度良いんだよ。
寧ろこのページが見つからなかったら、
「ああ、上手く作れたんだな」なんて思っときゃ良い。

さて、
一体誰がこれを読んでるのかは分からねえが、
何にせよ読んでくれてありがとうな。
作ってる奴らの気力が保つ限りは毎月刊行する予定だから、
良ければ来月のも楽しみにしといてくれや。

今月から再始動する会報誌「嶺上新星」。
神戸大学天文研究会共々、今後とも宜しくな。

月刊嶺上新星　2021 年 4 月号
制作：神戸大学　天文研究会

月刊

嶺上新星

2021年4月号

制作：神戸大学　天文研究会

▲広告募集中！　公式班・非公式班を問いません。
詳細は嶺上新星編集部までお問い合わせください。